

全工期無災害表彰式を行いました。

事業場名 株式会社塩浜工業 東京本社
現場名 (仮称)ESR 横浜幸浦ディストリビューションセンター3新築工事
工事概要 地上4階建て 柱・梁:PCaPC造 一部鉄骨造、免振構造
敷地面積 74.722.26 m² 延床面積 165.322.07 m²



全工期無災害記録証を受ける様子 (右 株式会社塩浜工業 東京本社 所長 清水氏)

「現場全員でつくり上げた“無災害”」

— 株式会社塩浜工業が語る、安全文化の裏側 —

今回、建設事業無災害表彰を受けるにあたり、現場の安全活動を牽引してきた担当者に、取り組みの背景や苦勞、無災害の要因についてお話を伺いました。

毎日の積み重ねが「安全文化」をつくる

— 現場での安全衛生意識をどのように高めてきましたか？

「まず徹底したのは、**毎朝のKY活動**とリスクアセスメントです。

どんな小さなヒヤリハットでも見逃さず、再発防止の周知会を行い、危険リスクを確実に下げていくことを続けてきました。」

5S 活動も“美化を中心に”と位置づけ、躓きや転倒を未然に防ぐ環境づくりを徹底。

さらに、所長・副所長・職長会・安全担当者が毎日現場を巡回し、設備の不具合や危険箇所を早期発見しています。

「巡回時には保護具の使用状況を確認し、点検票を使って保護具や機器の状態を定期的にチェックしています。また、協力会社を対象にした安全衛生教育も計画的に実施しています。」

慣れによる「危険の見落とし」が一番の壁

—— 安全衛生意識向上を進めるうえで、どのような苦労がありましたか？

「やはり、**慣れによる危険感受性の低下**が最大の課題でした。そのため、ルールを守るだけでなく、“なぜ必要なのか”を理解してもらうよう、再教育や周知会を繰り返し実施しました。」

また、協力会社ごとに KY 活動の質や是正の強度に差が出ていたため、職長会で基準を統一し、全社的に浸透させる工夫も行いました。

「書類や点検票、保護具確認など、正直“手間が増える”活動もあります。ただ、目的をしっかりと伝え続けることで、現場全員に腹落ちしてもらうことができました。」

「危険を物理的に排除する」という発想

—— 無災害につながった、特に効果のあった活動は何ですか？

「5S 活動を強化し、**躓き・転倒・はさまれのリスクを作らない環境づくり**に注力しました。また、重機・車両との接触を避けるため、導線を明確に分離し、危険要因を物理的に排除しました。」

高所作業では、墜落防止設備を先行整備し作業方法を標準化。多工種が同時に作業する場合には、昼礼で担当職員が作業間の干渉を調整し、事前にリスクを解消しています。

「安全パトロールでは是正事項があれば、必ず期限を設けて対応する。月間安全重点目標を掲げ、毎月の安全大会や安全衛生協議会を通じて共有する。こうしたやりっぱなしにしない仕組み”が無災害につながりました。」

次の現場でもゼロ災を！

—— 最後に、今後の目標を教えてください。

「次の工事でも無災害の継続を目指します。特に協力会社への教育をさらに充実させ、現場全体で安全文化を育てていきたいですね。」

また今後は、健康・衛生面の強化にも取り組み、健康起因事故の抑止を図っていく予定です。

「安全も健康も、どちらも“働ける環境の土台”です。全員が安心して働ける現場づくりを続けていきます。」